

令和4年度 第2回八雲町総合開発委員会

【開催日時・場所】

令和4年10月24日（月） 午後1時30分～午後3時30分

八雲町役場 第1・2会議室

【出席者】

別紙名簿のとおり

【内容】

1 開会

2 委嘱状交付

八雲町漁業協同組合 小川委員へ委嘱状の交付

3 町長挨拶

令和4年度第2回八雲町総合開発委員会に大変お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。

今回は総合計画の見直しということで、委員の皆様から意見をいただき八雲町総合計画の策定を進めていきたい。

コロナもようやく収束するかと思っていたが、また増えてきていると感じている。先日、東京出張の際も空港など多くの人で混雑していた。また、パノラマパークにも外国の方が多くインバウンドなど、八雲町含めて人が入ってきていると実感している。ただ、コロナの収束の目処は見えず引き続き感染対策をしながら生活していただければと思っている。また、出張の際に新宿ビームスジャパンに木彫り熊の関係で訪れたが、東京では私達の感じている以上に反響が大きい。社会教育課大谷係長と東京903会の安藤氏による講演なども行われた。皆さまの家にある木彫り熊が貴重なものとなっているのでどうか大切にしてほしい。いらぬようであれば八雲町でも受け付けている。現在木彫り熊は芸術性も高く評価されており、資料館にも東京方面から木彫り熊目当てでできていただいている状況。R6年3月に100周年を迎えることもあるため、八雲の伝統文化として取り組んでいきたい。

4 会長挨拶

朝夕が非常に寒くなり、山も色づき始めました。

委員の皆様におかれましては、日中大変お忙しい中、ご出席いただきまして誠にありがとうございます。本日の議案の内容でございますが、報告事項によります令和3年度の事業費・実施内容など、協議事項の総合計画の5年間の後期基本計画素案について委員の皆様から意見をいただきながら計画に盛り込んでいくもの。どうか委員の皆様から多くのご意見をいただきますようお願いいたします。

5 報告事項

- (1) 第2期総合計画 令和3年度事業費・実施内容、KPI進捗状況の評価について**
事務局（右門）より説明（資料P.1～31）

○質疑応答

【青沼委員】

資料の見方について資料 16 ページ分野4の「ふるさと応援寄附金奨励事業」の事業費1,303,202千円の金額について。この金額は合っているのか。

【川口課長】

記載の数値は返礼品や経費の金額となり、実際の寄附は25億となっている。

- (2) 第2期総合戦略 進捗状況の報告（令和3年度末）について**

事務局（右門）より説明（資料P.32～40）

○質疑応答

【佐藤委員】

資料49ページの内容をみると八雲町の人口が減少の一途をたどっている。この問題には町政の重要課題として取り組んでいる所であり、人口の増は企業誘致をすることとしているがなかなか難しい状況であると認識している。

この度日本フードパッカーの道南工場が増設工事をして非常に大きな活況を取り戻そうとしている。これは非常に素晴らしいことだと思っている。そこで町長にお尋ねするが、八雲町全体、特に熊石地区の人口が減っている状況であり、何か新しい動きなど施策をお聞きしたい。

【大野会長】

これからの資料に説明があるので、その後の回答とする。

6 協議事項

(1) 第2期総合計画 後期基本計画素案の審議（総論、基本目標1）について

事務局（右門）より説明（資料P.41～104）

○質疑応答

【佐藤委員の質問について回答】

【岩村町長】

人口減に対する支援方法について議員の方とも話をしているが、出生率が低く子供が生まれていない問題があることから、子育てを支援した方がいいとの話がある一方、若い人は結婚をしないという話もあり、結婚に繋がる支援をした方が良いと色々な話はあるが、結局は八雲町に働く場所を作っていくことが大切だろうと思っている。八雲の地域に働く場所を作っていくことが大切。現在、日本フードパッカーの工場の増設に伴って、日本ハムのインターファームなどの施設も八雲町内に出来てくるということで我々も嬉しく思っている。熊石地域でのサーモンの海面養殖では、漁業者が20mサークル1つから2つ、さらに3つと規模を拡大し雇用を生まれるようにしている。現在幼魚2万2千匹育成しているが、11月の中過ぎに10万の孵化もはじめる。さらに孵化や幼魚の育成を50万尾と拡大し、雇用を生んでいく。サーモンはこれらを進めながら、次の計画として加工なども検討している。更に日本海側では陸上養殖など、熊石地域にとらわれず違う地域の海面も検討している。熊石地域の農業に関してはハウスを行いたいということで、熊石高校跡地を取得しハウス等を計画している。折戸、相沼地域でも農業の計画を進めているので、これらの施策により雇用の場を作っていきたい。しかし、熊石地域では働く人が集まってこないということもあるので、お試しに働く人が住む場所として、熊石高校の住宅を購入し働く人が来てくれるような仕組みを考えている。海の方ではブルーカーボンということで、ホソメコンブの養殖や磯焼けの問題に対策を講じることで雇用を生み、働いて住んでいけるような仕組みを考えている。八雲地域はまだまだ働く場所は少ないが2030年新幹線の開業を見据え、工場等やお酒や食料などの色々な話がありますので、今後、組み立てながら雇用を生み出し人口減少を防いでいきたい。

【佐藤委員】

町長の言うことはよくわかる。企業誘致をきっかけに地元の人が就職できる場所があれば良い。このままでは人口減少が加速していく、これに歯止めをかけるためにも町民ともども考えていかなければならない。例えば企業誘致支援大使など、違う発想が必要ではないか。みんなで知恵を絞ってやっていかなければと思っている。

【阿部委員】

資料 P.98 主要施策 4. 地域防災体制の整備の見直しについてですが、平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災や令和 3 年度に公表された千島・日本海溝の地震津波想定などを書いているが、今年の 5 月 20 日に千島・日本海溝を震源とする巨大地震対策の改正特別措置法が公布された。この資料では去年の 3 月の時点での想定となっているが、新たに政府が 5 月 20 日に公布した内容から見ると、北海道太平洋沿岸の 39 市町村は、地震発生後 30 分から 40 分にかけて想定される津波の高さが 30cm 以上ということで、それらに該当する地域については、早急に施策を講ぜよという内容になっている。八雲町の場合、約 10m40cm の津波の最大の高さが想定され、最大死者数が 3200 人となっている。これはあくまで想定の数だが、そういうことが予期されるということに対して、東京以南、東海地方、南海地方、特に四国あたりで避難タワーがつけられている。八雲町は平地が多く、10m40cm という想定では線路から浜側が全滅する可能性がある。このことに対して早急に施策を検討するべきではないのかということ。11 月での報告は難しくても住民の安全、命を守る立場から早急に検討していただけるよう要望する。

【総務課長】

千島・日本海溝の地震津波の想定についてですが、八雲町も指定を受けた 39 市町村の一つである。八雲地域は南北に長い 40km の地域となっている。平野部、特に山崎・花浦地区に関しては押し寄せる津波を想定した場合、高いところに逃げるのが大事だと思っている。市街地は今後整備が進められる役場新庁舎は、旧国立病院跡地で計画されており、標高の高いところとなっているので避難体制や避難物資等の整備も早急に進めていかなければいけないと思っている。国の補助があるとしても財政の問題もありますので、適宜判断して取り組んでいきたい。

【佐藤委員】

P.98 の災害時の情報伝達方法における防災無線についてですが、住民の方から聞こえないと意見があるが、対策として現状どう進めているか伺いたい。

【総務課長】

防災無線で情報伝達すると、確かに町民から聞こえづらい、聞こえない、音声がハウリングするなどご意見をいただいている。基本は屋外拡声器のため屋外の人に知らせるもの。熊石地域では屋内に個別受信機があるため解消されているが、八雲地域は津波浸水区域に整備した屋外拡声機しかなく、各家庭での個別受信機はない状況である。

また、情報伝達については数年前から一般質問等でも聴かれている。町としては戸別受信

機もそうだが、それ以外の情報伝達手段についても専門業者と情報交換している。しかしこのような機器は日進月歩ということもあり、3年前に検討したものが、今また新しいものになっているのが現状。そのため、私たちが想定しているのが、スマートフォンであり、これだけスマートフォンが普及している中、スマートフォンはキーになると考えており、そういったものを普及させたいと思っている。費用対効果を考えた上で、試験的にやってみて皆さんの声を聴きながら進めていきたい思いがある。戸別受信機には限らないで考えていく。

【佐藤委員】

音量はどうか、聞こえる方法はないのか。

【総務課長】

今の防災無線の音量を上げると解決できるようなことでもない。音量を上げたがそれも聞きづらいといった状況にもなった。現在の音量が最大限度と考えており、防災無線以外の方法を考えている。

【岩村町長】

防災無線は基本的に外にいる方を避難させるためのもの。今の住宅は気密性が高いので、室内ではなかなか聞こえない。今年からスマートフォンのLINEを使い様々な情報発信をして試験をしている状況であり、ほとんどの方がスマートフォンを利用できることからこれを来年度から進化させながら浸透させていきたい。ただ、スマートフォンを使えない方もいるので、そのような方には熊石地域にある株式会社リングローの運営している集学校で高齢者に対してスマートフォンの使い方を教えているので、八雲地域でも行っていただくと、今度は町でスマートフォンを貸し出すなどを考え、声だけでなく、文字での情報発信、さらに〇〇地域は〇〇へ逃げなさいと発信できればと考えている。

避難タワーにしても、国の補助は2/3とういことで町村会を通して道からも補助を出して欲しいと要望している。また、維持費は対象外とのことで、維持するのに費用がかかるため、こちらにも補助をだしてほしいと国に要望をあげている。

内浦地区については、地域の方々と話をしながら、地域の会館をいれながら、その上に避難できる施設としたい。落部地域についても何かの施設と一緒に避難もできる施設を考えている。また、その中心になる町の防災センターは養護学校跡を整備した方が早いのかとも思っており、早急に対応をしていきたい。

【佐藤委員】

そのような手法を検討していることは、一般の町民の方は全然知らない状況ですから、今後こういうことを行っていくということを広報等で知らせることが大事ではないかと思っ

ている。

【長谷部委員】

防災無線の話は色んな課題があり、まず聴覚障がい者の人はどうにもならない。それでは視覚障がい者の人はどうするのか。非常に大変な問題や課題を抱えている。

全ての方に伝達をとなると、行政だけで情報が全町民に届くのか懸念される。要支援者に対する避難を町内会に任せてもいいのか。町内会では要支援者がどれだけいるかわからない。個人情報保護の関係もあるがそこをどうクリアするのか。名簿を関係機関に配布する方法など、方策を含め検討してほしい。

P.58～59 野生鳥獣の保護と管理 ヒグマの問題・エゾシカの問題、人命被害や農作物被害もあるが、町内の中にもキツネがたくさんいる。人獣共通感染症（エキノコックス）を持っているためヒトにうつるだけでなくイヌ科にもうつる。犬を媒介にしてヒトがかかる危険性もある。住民の健康を守るためにも大事な課題であり、ただ検診だけで早期発見しても治療ができず、予防が一番大切だと思うため、そういった課題や対策をいれていただきたい。

P.72 並行在来線の推進 かなり踏み込んでいる施策で、「並行在来線にかわる交通手段の検討」これだけを見ると並行在来線をあきらめたのかとってしまう。人だけでなく物も運ぶものなので、北海道の産業を守ろうとした場合非常に大事だと思っている。

P.90 交通安全の推進 施策として「カーブミラーや道路標識等の交通安全施設の整備」とあるが、これは施策の数値目標としてあげることはできないのか。

P.99 数値目標の「寒冷地対応備品の整備率」ということで、この率の分母は何か。

【農林課長】

キツネは市街地でも発生している状況であります。令和3年度キツネ駆除数は八雲全域で21頭であり、主に山側の農村地域となっている。小牛がキツネにおそわれたなどの被害状況もあります。駆除につままして情報があれば罠等を設置し対応していきたい。また山の駆除を中心に実施し、市街地への発生を防いでいきます。

【岩村町長】

JR貨物と旅客は分離して考えている。並行在来線からの新幹線の駅への特急はなくなる。そこで並行在来線からの新幹線駅までをどうするかを意味している。まだ在来線をどうするのか結論は出ていないため、新幹線駅からのバスを転換したらどうなるかを検討しているもの。P73 記載の「並行在来線からのバス転換等の研究」という表現も悪かった。ご理解いただきたい。

【総務課長】

カーブミラーの関係ですが、内容的には修繕、取り換えがメイン。新たに設置したといったことはなかったため、目標を変えることとした。寒冷地対応備品の関係の分母は冬期に使うものでポータブルストーブやジェットヒーターとなるが、災害備蓄品計画の中で数量を決めているので分母はその計画の数量となる。

【阿部委員】

先ほどお話ししたのは、新たなフェーズに移行したということ、つまり昨年度より更に踏み込んだ形で政府が北海道沿岸の39市町村を指定し、その中に八雲町が含まれているので早急に対策を検討し示してほしいということ。決して避難タワーを作してほしいということではない。避難タワーは約3億円と言われている。私の認識では従来は1/2を国でも持つとなっていたが、今回の法律改正で2/3を国で持つ。残りの1/3を自治体でということだが、各自治体はせい弱なため北海道に要請している状況だと思う。避難タワーに限ったことでなく、新庁舎に防災機能を持たせるという事なのでそういう意味でも早急に何かしらの対策をしてほしいというお願いだった。防災無線の音の関係については、町長の言う通り気密性の関係でこれはどうしようもない問題だと思う。要は30cm程度の津波が来るまで30分~40分程度かかると言われている中で元気な方は、高齢者や障がい者の方に声をかけてみんなで避難するなどの対策を行わなくては解決しない問題である。また、長谷部委員が話されていたが、町内会に対して町は避難支援の協定を結ぶということ平成25年から進めている。協定を結んだ町内会に対しては70歳以上の障がい者の名前と、75歳以上の独り暮らし高齢者の名前のリストが町から提供される。障がい者の場合は、保健福祉課から逃げるための手助けが必要か打診して町内会に知らせてくれる。その制度を広めていただいて、避難支援を担う方に協力体制を高めていくことが必要であり、その取組を強化して欲しい。

木彫り熊について、この何年かでどこから湧いてきたのか、関心が高まってきている。八雲町の木彫り熊に限ったものではない。第一次の木彫り熊ブームは1920年後半、東北出身の兵隊が旭川の陸軍第七師団に集まり、木彫り熊がお土産用に流行った。旭川では八雲から2年後に木彫り熊が作られており、これが第一次の木彫り熊ブームと言われる。第二次の木彫り熊ブームは1970年代、加藤登紀子や森重久彌らが知床旅情を歌い北海道旅行がブームとなった時期となる。今が第3次というのかどうかは難しいが、木彫り熊はメルカリやヤフオクでも価格が高くなっていて、それなりに全国的に購買意欲が高まっている。江戸市川という会社は八雲町の木彫り熊に八雲系という名前をつけて彫氏12名の方の熊は高く買うなどホームページで公開されている。また、11月には新宿に木彫り熊を飾った「KIBORI(キボリ)」というレストランをオープンさせるという話もある。

結論、昨年 3 月 20 日の総合開発委員会でも発言したが、あの時点では木彫り熊の価値が高まっていなかったため、親の代であった木彫り熊を子ども代では価値がわからず捨ててしまったという人もいます。そのため、何かしらの対応を考えたら良いとの話であったが、この一年間で木彫り熊の価値が極めて見直されてきたことから、買いたいという方が全国的に広がってきている中では、八雲の家庭で持っている木彫り熊がもしかしたらお金ほしさに売られてしまって散失されてしまうのではないかと状況になっている。

今年、青沼委員が尽力し 40 体ほどの家庭に眠っていた木彫り熊をふたばの店頭に飾りましたが、これも今は家庭に戻り町との接点がない状況にある。そのため、できれば家庭に埋まっている木彫り熊の調査を、町として教育委員会として、木彫り熊発祥ということで家庭に眠っている木彫り熊が旭川の物なのか、釧路や阿寒のものなのか八雲のものなのか、そして八雲で大事にすべきものなのか持ち主にわかるようにすることが、大変重要な時期に来ていることを考慮していただいて、令和 6 年の木彫り熊 100 周年に活かせるよう結びつける形で取り組んでもらいたい。

【教育長】

ビームスとの連携を行ったのも、八雲町にいる皆さんが「八雲と言えば」の一つに木彫り熊という、木彫り熊への愛と言いますか、八雲のアイデンティティの一つになればということで、みなさんに関心を持っていただいて八雲町を理解して、わかってもらうために行わせていただいた。八雲町では、木彫り熊は単なる売り物ではなくて、八雲の皆さんの気持ちが伝わって、町民として大事にしている物だということがわかり合い、子供たちに伝わっている事業にしたい。また大事に扱い大事に想うというところをどのように広めていけるか考えて、令和 6 年度につなげていきたい。

【佐藤委員】

令和 6 年の 100 年に向けて準備委員会などどういう動きをしているか。

【教育長】

今のところ組織立てていないが、構想をもって、出来るだけ木彫り熊を応援してくださっている方の力をお借りしながら、町民全体で沸き上がるような活動ができるよう検討しているところ。

【寺田委員】

今回は総論と基本目標 1 ということで多岐に渡り話し合われました。人口減と地方創生、新幹線の問題はそれぞれリンクしている物であり、今回のように個々に課題を洗い出し、案を出し合うのも確かに大事ではあるが、リンクされている物を横断的にも議論する必要が

ある。例えば新幹線が来る、そのことにより新たな雇用が生まれる、新たな人も来る。一方で、貴重な人材が流出する可能性もある、他にも並行在来線の問題等、複雑な問題がたくさんあるため横断的に議論する場所が必要である。

私自身は移住者であり、八雲の魅力は他の町と比べてなにか考えることが多いが、皆でこの街のいいところ、10年後、20年後、100年後も語れる八雲町の魅力や誇りを考え、この場で見出すことが必要である。

(2) 第2期総合戦略 事業追加等について

事務局（右門）より説明（資料P.105～106）

質疑なし

7 その他

【阿部委員】

体育館のトレーニング室に約403万かけていただき、新たなトレーニングキットが用意された。利用者から都市部のサーキットトレーニングのようなジムのようだと大変喜んで使っていたのでそのことを報告させていただく。

8 閉会

令和4年度 第2回八雲町総合開発委員会出席者名簿

| No. | 区分 | 氏名 | 所属 | 出欠 | 備考 |
|-----|----|--------|-------------------|----|----|
| 1 | 委員 | 大野 尚司 | 八雲町町内会等連絡協議会 | ○ | |
| 2 | 委員 | 井口 啓吉 | 熊石町内会等連絡協議会 | ○ | |
| 3 | 委員 | 近藤 安幸 | 八雲商工会 | 欠 | |
| 4 | 委員 | 稲見 敦子 | 八雲商工会女性部 | ○ | |
| 5 | 委員 | 本田 貴臣 | 八雲観光物産協会 | 欠 | |
| 6 | 委員 | 舟田 進一 | 新函館農業協同組合北渡島運営委員会 | 欠 | |
| 7 | 委員 | 梶田 孝女 | JA新はこだて女性部八雲支店女性部 | ○ | |
| 8 | 委員 | 小川 勝士 | 八雲町漁業協同組合 | ○ | |
| 9 | 委員 | 久保 扶佐子 | 八雲町漁業協同組合女性部 | ○ | |
| 10 | 委員 | 鎌田 和弘 | 落部漁業協同組合 | ○ | |
| 11 | 委員 | 木村 滋 | ひやま漁業協同組合熊石支所 | ○ | |
| 12 | 委員 | 能代 常男 | 八雲町社会福祉協議会 | ○ | |
| 13 | 委員 | 浅沼 真 | 連合北海道八雲地区連合会 | ○ | |
| 14 | 委員 | 西田 浩人 | 八雲町校長会 | ○ | |
| 15 | 委員 | 阿部 政邦 | 八雲町体育協会 | ○ | |
| 16 | 委員 | 上田 倫央 | 北海道労働金庫八雲支店 | ○ | |
| 17 | 委員 | 小笠原 英毅 | 北里大学獣医学部 | 欠 | |
| 18 | 委員 | 青沼 千鶴 | 司法書士・行政書士やまびこ事務所 | ○ | |
| 19 | 委員 | 長谷部 修 | 一般公募 | ○ | |
| 20 | 委員 | 寺田 裕 | 一般公募 | ○ | |
| 21 | 委員 | 佐藤 馨 | 一般公募 | ○ | |
| 22 | 委員 | 東間 和浩 | 一般公募 | ○ | |
| 23 | 町 | 岩村 克詔 | 町長 | ○ | |
| 24 | 町 | 成田 耕治 | 副町長 | ○ | |
| 25 | 町 | 土井 寿彦 | 教育長 | ○ | |
| 26 | 町 | 竹内 友身 | 総務課長 | ○ | |
| 27 | 町 | 川崎 芳則 | 財務課長 | ○ | |
| 28 | 町 | 石坂 浩太郎 | 農林課長 | ○ | |
| 29 | 町 | 田村 春夫 | 水産課長 | ○ | |
| 30 | 町 | 井口 貴光 | 商工観光労政課長 | ○ | |
| 31 | 町 | 藤田 好彦 | 建設課長 | ○ | |
| 32 | 町 | 佐藤 英彦 | 環境水道課長 | ○ | |
| 33 | 町 | 鈴木 敏秋 | 新幹線推進室長 | ○ | |
| 34 | 町 | 野口 義人 | 地域振興課長 | ○ | |
| 35 | 町 | 北川 正敏 | 住民サービス課長 | ○ | |
| 36 | 町 | 大淵 聡 | 消防庁 | ○ | |
| 37 | 町 | 佐藤 真理子 | 社会教育課長 | ○ | |
| 38 | 町 | 戸田 淳 | 保健福祉課長 | ○ | |
| 39 | 町 | 田村 敏哉 | サーモン推進室長 | ○ | |
| 40 | 町 | 多田 玲央奈 | サーモン推進室次長 | ○ | |
| 41 | 町 | 川口 拓也 | 政策推進課長 | ○ | |
| 42 | 町 | 上野 誠 | 政策推進課長補佐 | ○ | |
| 43 | 町 | 右門 真治 | 政策推進課政策企画係長 | ○ | |
| 44 | 町 | 長谷川 佳洋 | 政策推進課企画係主任 | ○ | |